

日本

今は主に出会って幸せです

森本たい子執事 (飯田万民教会)



私は妹に導かれて2003年11月、初めて飯田万民教会の礼拝に参加しました。今まで知らなかった心の平安を覚えました。...

験する機会が与えられました。転移を防ぐためにリンパ節を切除したので、腕がむくんで上げられない後遺症で苦しんでいましたが、ハンカチ集会の知らせを聞きました。...

に頂いた<マイ6:33>「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」というみことばが思い出されて、聖霊の導きだと信じ、その金額をささげようと決めました。...

た。車には1才くらいの赤ちゃんが乗っていました。運転前の祈りと牧者の空間にいたことで守られたのです。...

2009年度7月分 日本聖潔教団 支教会 行事日程

Table with 4 columns: 日付 (Date), 教会 (Church), 講師 (Lecturer), 行事名 (Event Name). Lists various church events for July 2009.

日本支教会の連絡先

Grid of contact information for various local churches including: イエス・キリスト飯田万民教会, イエス・キリスト別府万民教会, イエス・キリスト川崎万民教会, etc.

Header banner for '万民中央ニュース' (Manmin Central News) with contact info and a world map background.

神様の約束 珍しい虹 おもな行事のたびに多様な虹が現れる

Large article about rainbows with multiple photos of different rainbow phenomena and a detailed list of 7 specific sightings with dates and locations.

東京田端万民教会 創立9周年記念礼拝および勸士就任礼拝

5月24日(主)、東京田端万民教会(担任・チョン・ギョング牧師)の創立9周年記念および勸士就任礼拝がささげられた。...



旭川万民教会 創立10周年記念礼拝



6月9日(火)、旭川万民教会(担任・小松幹伝道師)の創立10周年記念礼拝が行なわれた。山形万民教会のチャン・ガンソプ牧師を講師に「神様の力」というメッセージは、聖徒たちの信仰と力となった。...

Footer area containing logos and contact information for Manmin Central Church, Manmin TV, WCDN, and other regional churches.





堂会長イ・ジェロク牧師

1. 信仰が持続的に成長するためには、罪の性質を発見して捨てるべき

信仰の三段階になれば、みことばに込められた神のみこころが悟れて信じられるので、十分にみことばどおり行なえます。それで「戒めを守るのが負担だ」「信仰生活がづらい」ではなく、「戒めを守って生きるのは幸せだ」と告白します。このようにみことばどおり行なえる三段階を越えて、信仰の四段階に入れば、霊の次元に入ります。

ところが、信仰の段階をすみやかに突き抜けて、霊の段階まで順調に入る人もいますが、そうでない人もいます。信仰の一段階から二段階、二段階から三段階まではすすりながら、三段階であまりにも長くどまっているのです。四段階に入るには、心の罪の性質そのものを捨てて聖められなければならぬのに、捨てるのにあまりにも長くかかるのです。

例えば、「憎んではならない」「敵を愛しなさい」とあるのを、自分をつらくさせる人がいて、理解して、自分をつらさず。しかし、心にはまだ憎しみという罪の性質が残っています。いつも喜んで、感謝して、絶えず祈りますが、心から不平やつぶやきの根が完全に引き抜かれたわけではありません。このような時、自分の中に罪の性質があることを知りながらも、怠けや優柔不断ゆえに、決断して捨てられない場合もあります。

さらにもどかしいのは、自分の心に罪の性質が残っていることを自分では悟れない場合です。罪を捨てするために、まず自分にどんな罪と悪があるかを見出しなければなりません。発見できなければ前に進めません。信仰の青年期のような三段階に入った後、すみやかにおとなの信仰である四段階に入るべきなのに、信仰が停滞してしまえば、問題が起きます。聖霊に満たされなくて、何か苦しくて悩むようになります。自分ではよくやっているように、他の人に認められなくて、みことばの権威や力が伴わないので、気を落として自分から苦しみだります。

本当に信仰生活を正しくして、霊に入ったならば、その人はいつも聖霊に感じて動かされ、満たされているし、聖霊の声を聞いて正確に導かれます。また、神様がともにおられる証拠があらゆる分野に現れ始めるのです。もしこのような証拠が伴わないなら、まだ捨てるべき悪があることを知らなければなりません。

2. 信仰が停滞しないで、すみやかに霊に突き抜けて入るには

(1) 罪との戦いをやめてはいけません

「モチエ」の手紙第45に「神のことばと祈りによって、聖められるからです。」とあります。聖められることには王道がありません。みことばを聞いて、自分の中の真理に逆らう

ものを悟らなければならぬし、祈りによって発見したものが捨てられるように、神の力を受けなければならぬのです。これは、適当にみことばを聞いて恵みを受け、いつものように祈る程度を言うものではありません。信仰の三段階くらいになれば、誰でも神のみことばを聞くことを喜びとしながら、祈りをやめません。

しかし、時が経つほど、罪を捨てようと熾烈に努力していた以前の姿が冷めていく場合があります。罪と熾烈に戦っていた時は、ささいなことでも罪の性質を発見すれば、心を引き裂いて、何としてでも罪を捨てようと、断食しながら徹夜で祈ります。このように、変わらず罪の根の根まで引き抜いていけばよいのですが、それとなく要領を覚えて、休戦状態に入ります。

戦場でも、一度優勢になれば、その勢いをかって完全に敵を滅ぼしてしまふべきですが、止まれば、敵軍が戦列を整えて反撃する余裕を与えてしまいます。霊的な戦いも、三段階をすみやかに突き抜けていくためには、まず「私はこのくらいにはなった」という霊的な怠けを警戒しなければなりません。みことばと祈りで罪の性質の根の根まで引き抜くよう、罪と血を流すまで戦うことを休んではいけません。

2) 肉の思いを打ち砕かなければなりません 「肉の思い」とは、心にある真理に逆らうものが魂の働きを通して現れるものです。<ローマ人への手紙8:6>に「肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。というのは、肉の思いは神に反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」とあります。心に真理だけがあれば、御霊による思いだけが出てきます。また、肉肉なことも考えないし、肉の思いもいけません。

しかし、真理に逆らうものがあると、魂が働いて、真理に逆らうものが思い出されます。まるで、コンピュータに間違った資料を入力すれば、間違った結果が出てくるようなものです。それで、肉の思いがある人は神のみことばに従うことができません。

例えば「仕える者が偉い者である、受けるよりも与えるほうが幸いです。」と聖書にあります。ところが、心に高ぶりと欲があると、このようなみことばを聞く時に「受けないで与えるだけなら、損をするのではないか?」「自分を表しても認められにくい世で、仕えて低くなれば、私はどれほど愚かに見えるだろうか?」このような肉の思いをするので、仕えることも与えることもできなくなります。このように神のみこころを理解することもできなくて、神に対して反抗する」とあるのです。

毎週の説教を聞いて、神は全能全知、神のみことばだけが唯一の真理であり、みことばに聞き従うことが幸いだと思って信じま

信仰の量り(10)

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がりはけません。いや、むしろ、神が御のおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、憤り深い考え方をしなさい。」(ローマ12:3)

す。ところが、だんだん頭で知っている知識が多くなる一方で、知っているほど心に完全に耕せないと、聞いた真理のみことばを自分の悪と巧みに結びつけて、新たな肉の思いを生み出します。みことばで自分の罪と悪を発見するべきなのに、かえって他人をさばいて罪に定めたりします。また、自分の過ちを言い訳して正当化させるために、みことばの連れ合い(イザヤ書34:16)を無視して、一部分だけを適用したりします。そのような肉の思いのうち最も代表的なものが、自分の義と自分の

まず「自分の義」とは、簡単に言うと「私が正しい」と主張することです。自分の義が強い人は、相手も自分の義に従うように強いるので、人を苦しめることがよくあります。例えば、熱心に聖徒を訪問しなかったり、忠実でない人を見ると、自分の義が強い人は相手を悟らせようと「働き人といいなから、そんなに怠けでいいでしょうか?」と指摘します。

あるいは、人がいるところで「私の周り、これではいけない人を見ました。私たちはそうしてはいけません」と言います。この時、本人や周りの人が聞けば、誰についてのことかすぐわかるような話をするのです。もちろん、熱心で、忠実であることは当然であり、指摘して相手が恵みを受けて悔い改めれば幸いです。相手がその言葉を受け止められなかったり、むしろ逆効果になったりすることもあるのです。「あの人が私の心を突き刺す」と思っ、満たされなくなったり、つまずいたりすることもあります。

たとえ相手の過ちを論さなければならぬとしても、聖められたい心をもって上から知恵を受ければ、相手の心を感動させる善の方法が思い出されます。しかし、自分の義が強い人は、自分の知っている真理が正しいとだけ思うので、自分の方法が神様の心に入らなかつたり、つまずいたりしたとしても、相変わらず「私は正しくて相手が悪い」とだけ思います。すなわち、内容が正しくて善だと思っても、方法が善でないとは悟れないのです。

それで「平和をつくりなさい、仕えなさい、さばいてはならない」、このようなみことばを聞いても「私は神様を愛して忠実な者だ」「相手を愛して論した」と思います。このように「私が正しい」と思うことが自分の義であり、これによって自分の悪が発見できなくなり、聖められる道へすみやかに進めないので、また、自分ほども正しくて良い人のように、他の人が避けたい人になってしまうかも知れません。

次に、「自分の粹」とは、「これだけが正しいことだ」と真理で自分なりに作った粹です。たとえば、皆さんが信仰生活に熱心なとき、神様が信じない親や夫としては、家族と遠く離れたように感じるので、さびしく思うことがありますが、このような時は、神の国に忠実であると同時に、家族の心と立場を思って、真理に従

ってよく仕えて愛し、彼らの心を感動させるべきです。

ところが、自分の粹を作ると、家族の心をさびしめて傷つけるようになります。「私的な感情と欲を断ち切って、心に霊の愛を耕さなければならぬ」「家族の福音化のために祈る時も、神様にまず喜ばれてこそ、神様が感動されて、すみやかに働かれる」というみことばを聞きながら、自分なりに粹を作るので、真理を間違えて適用するのです。

たとえば、ふだん親に仕えてもいないのに、「私は親より神様のほうが大切で。私にこの世の情を期待しないでください」と言います。親の誕生日に、親の心を感動させるプレゼントを贈るのではなく、伝道トラクトや聖書などを贈りながら、それが霊の愛だと思つて、このようにして親の心を傷つけたり、伝道する機会をふさいでも、粹がある人は悟れません。自分は「神様の働きを熱心にして、親にも霊的に仕えて、全家に忠実な者になった」と思うからですが、「こうすることが真理だ、霊だ」と、自分が作った粹から抜け出せないのです。

しかし、本当に霊の心ならば、真理にあつてもあれもこれもよしとしなければなりません。たとえ自分のほうが正しいとしても、相手の信仰と状態に合わせるべきです。ユダヤ人にはユダヤ人のように、異邦人には異邦人のように、相手の立場になつて伝道した使徒パウロのように、善の知恵を授からなければなりません。

ところが、自分の粹が強い人は、自分が真理だと思つてことごとく、平和を破って自己中心的で、堅固しい人だと言われる時もあります。ところが、いざ本人はというと「私は平和を破ろうとしたのではなく、真理に従っただけだ」と思います。このような粹の中に安住しているので、自分が発見できないし、信仰の成長が停滞するのです。

自分の義と自分の粹は、よく似ているように見えますが、はっきり見分けられます。ある人は、粹が強いけれど、自分だけその粹の中にとまどいて、他人のまどつらくさせません。すなわち、粹は強くても、よく打ち壊せないのですが、自分の義を強く打ち出さないのです。そうかと思えば、自分の粹が強くても、自分もその粹の中だけで行おうとするだけでなく、他の人もその粹に合わせるよう強いて、相手を苦しめる人もいます。しかし、自分の義や自分の粹は、結局真理に逆らうものを作ったものであり、これを通して働く肉の思いを打ち砕いてこそ、霊に突き抜けて入れることを心に留められますよう。

みことばによって自分の姿を発見したら、恵みを与えられている今の機会を逃さず、すみやかに変えられますように。そして、罪がなくて聖い真心と、傷もしみもない全き信仰になり、神様に喜ばれる子どもと認められますよう、主の御名によって祝福して祈ります。

人生の大逆転を夢見るなら… 『十字架のことば』を読んでください

ドンジャク警察署の情報保安課に勤めているヤン・ドンノク長老(2大大18教区)。彼は厳しき警察官というより、親切な隣の家のおじさんのような。ふだんから人に仕えることが好きで、廃品回収のおばあさんを見れば、ただやり過ぎなくて、リヤカーを目的地まで押して、手にお小遣まで握らせてから帰ってくる。朝早く出勤して掃除や機の整理をしてから、他人が嫌う仕事を進んでる彼は、さすがにクリスチャンと評判が良い。彼の唯一の趣味は「聖書の学び」である。前は酒、タバコ、囲碁、将棋、ギャンブルにはまっていた彼が、今はポケット聖書を持ち歩いて、読んで



ヤン・ドンノク長老(ドンジャク警察署 情報保安課 警衛)

は祈る面白さにはまっている。「前は「神様は愛だから天国だけ造られたらいいのに、なぜ地獄を造られたんだろうか?」「なぜアダムが善悪の知識の木の実から取って食べないように止められなかったの?」など、わからないことがたくさんありました。このような疑問と地獄に対する恐れを持ったまま30年間以上教会に通っていた彼に、神の愛を伝えたのは『十字架のことば』という本だった。1996年、彼が万民中央教会に来て読んだ堂会長イ・ジェロク牧師の『十字架のことば』が、まるでそのために出版されたかのように、彼の長年の疑問を詳しく解き明かしてくれた。「ひとり子イエス様を十字架に渡してくださった救いの摂理、すべての人が天国へ行くように願うが、地獄を置かれるしかなかった神様の心・特に善悪の知識の木を置か

れた理由…涙、悲しみ、苦しみを体験してはじめて天国の幸せが本当にわかるという『相対性』を悟って、『まさにこれだ!』と膝を打ちました。何とも言えない喜びが湧いてきました。」

彼はこれまで自分がどれほど愚かな者だったかを悟った。執事でありながら、いまだに酒、タバコをしていることがとても恥づかしかった。それで、酒、タバコだけでなく、ギャンブルをみなやめて、信じたばかりの時の心で信仰生活をやり直した。

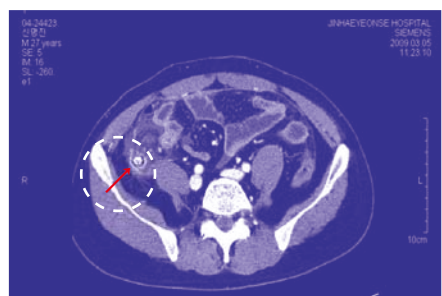
神様にもっと深く会うために、電車、バスなどで時間があるとは聖書を読み、祈りを休まなかった。堂会長イ・ジェロク牧師の著書を読んでみことばを糧として、新たに生じる疑問は紙に書いておいて人に聞いた。

妻は、ギャンブルを楽しんでいた彼が早く帰宅して、静かに信仰書を読み、各種の礼拝に参加するのが不思議だった。そして、せっかちな性格はどこかに消えて、細やかで物柔らかな性格になったのは本当に神様の恵みだと証する。夫婦仲がいつも良く、互いに励ましあって教会の使命を果たしているの、子どもたちは「友だちがうちの家をすごく羨ましがっている」と喜ぶ。

今はただ新しいエルサレムへ行く希望しかないという彼は「いまだに捨てられない義と粹があるのをよく知っています。でも『私にとって、毎日が死の連続です。』という使徒パウロの告白(第一コリント15:31)を座右の銘として、神様にふさわしくないものはほんのわずかも残さず、自分に死んでいきます」と大胆に告白する。

急性腹膜炎が祈りでいやされて

2009年3月3日朝、突然おなか張った。ただごとではなかった。トイレを行ったり来たりして吐いてみたが、全然良くなかった。ついには痛くて腰が伸ばせなくなった。



急性腹膜炎で周囲に膿がたまっている(祈りを受ける前)

その日の夕方、突然腹部が裂けるような痛みが変わった。冷や汗が背中を流れて、顔は白い紙のようだった。母に助けられて堂会長イ・ジェロク牧師の電話のいやし祈りを受けて、ムアンの甘い水を飲んだ後、痛みが少しづつ収まった。その夜はぐっすり眠れた。

3月5日、病院で診察してもらった結果は「急性腹膜炎」だった。医師は「急いで手術しなければ死ぬかもしれない」と言った。けれど私は3月6日、ソウルに来て堂会長先生に一部始終を説明して祈りを受けた。その後、腹部が軽くなって、腰が伸びるようになったし、便通があつて緑色の水のようなものを吐き出した。そのたびに体が軽くなるのを感じた。二日後からはおもゆが少しづつ食べられたし、徐々に体が回復した。

私は生ぬるかった信仰生活を徹底的に悔い改めた。神様は、私が悔い改めて信仰を持つほど徐々にいやしてくださった。続いて私は断食と祈りで神様にゆだねた。すると心が安らくなって、腹部の腫れが引いて、完全になくなった。

4月10日、医師は、盲腸と大腸の間にできた小さい穴に石が詰まって虫垂突起が破れていたが、今は石がなくなった。手術しなくてもいい、と言った。「若いからか、祈りの力かわかりませんか。とても遅い人ですよ。」

手術せずに急性腹膜炎をいやしてくださった神様に、すべての感謝と栄光をお祈りする。

シン・ミョンジン兄弟(マサン万民教会)



イ・ジェロク牧師の代表的著書

天国(上) 天国とはどんなところか? 永遠に何をやるのだろうか?



聖書の奥義を解き明かす書 信仰の量りに応じて入る天国 五段階の場所を明快に説明 天国の暮らしを具体的に知れば この地上でどう生きるべきかわかる

天国(下) 神の栄光が満ちている 聖なる都、新しいエルサレム



ヨハネの黙示録に記されている 最高の天国、新しいエルサレム 十二の扉と十二の道 天使に仕えられて永遠に生きる所 そこへ入るには? 全き信仰に至る道を示す

地獄 神様から全人類への 切なる愛のメッセージ



ひとりも地獄へ落ちてほしくない 愛の神様が解き明かされた 凄惨な下よと地獄の刑罰 地獄の愛情を知ってこそ 天国を激しく改めて行く

信仰の量り 目標ある信仰生活の必読書



自分の信仰を正確に量り 全き信仰に至る方法を提示 信仰に応じた天国の場所と報い クリスチャンへのチャレンジ 信仰生活に目標を与えてくれる

私の人生、私の信仰1 イ・ジェロク牧師の自叙伝



7年間の病気の末、生ける神に出会い 主イエスの恵みに頼りようとして ソウルに万民中央教会を開拓 火のような訓練を通して 聖霊の炎の燃える教会に導く 真の信仰人の道を省察させる

私の人生、私の信仰2 『私の人生、私の信仰1』の続編



イ・ジェロク牧師の伝える 永遠のいのちのことば 彼に現れる神の力あるわざ 十字架だけを仰ぎ見えた歩みは イエス・キリストの御足の跡と重なる

MIS教材 『十字架のことば』 人類の救いの摂理を 解き明かす信仰入門書



神様はどんな方か? なぜイエス・キリストだけが救い主か? 天地万物と人の創造 世界の始まる前から隠された奥義 十字架に込められた神の愛 全き救いに至るには?